

第3回柴田町新図書館建設検討委員会 議事要旨

日時 令和5年10月27日(金)午後2時から

場所 保健センター 4階 多目的ホール

1 開会

2 開会のあいさつ

3 議事

協議事項

(1) 基本構想骨子案について

委員長：当日資料として示されている各図に関して、委員の方からご説明いただけるとありがたい。

委員：前回の会議で循環というキーワードが出た。循環といえばPDCAかなと思い、この図を作成したところ。PDCAは取り組みを進めていくのに必要な要素。踏まえて作っていくのも良いと思う。また、先ほど「耕す」から、という説明があったが、まちづくりというのは、どこから始めてもいいものだと思う。PDCAもPから始めてもいいし、できるところからはじめていけばいい。図には矢印の要素は不要かと思う。

委員長：運用していく際の視点であるPDCAは重要な考え方。またどこから始めてもいいという考え方もその通りだと思う。今取り組んでいる活動から始めていくのも良い。

委員：今行っている取組・企画について、もっとうちの方が良いなというように、PDCAのCから始めるのも良いと思う。前回会議の意見で「今の図書館でも取り組みそうなことについて、今からでも始められるのではないか？」という意見があった。新しい図書館ができてから、作ってから運営していくのではなく、図書館整備や図書館運営は、今時点から始まっているのだと思う。今の図書館でできそうなことは、今からはじめていくことが大事だと思う。

委員長：基本目標として掲げた各項目について、PDCAとどう絡めていくかは視点の一つであると思う。

委員：図書館は、色んなことができる場所だと思う。図書館が活発になると地域も元気になる。図書館の中で、個人がやりたいこと、目指すものを実現できるようになっていけば良い。昨日の会合でも話していたが、まずは色んなことをやっていって、そしてLibrary of the Yearを目指すという方向性も良いと思う。そういったみんなで目指す目標があるとみんなで頑張れると思うし、みんなで進んでいけるようになっていくのではないかなと思う。

委員：3つずつの項目について住民のしたいことと図書館の方針の関わりを示した図が、提案した図となっている。「地域住民が実現したいこと」に対して、「図書館は何ができるんだろう」という視点からまとめた図。例えば、「活気ある地域にしたい」という思いに答えて図書館は「地域での活動を応援」したり「まちづくりへの参加を応援」したりするように、住民がしたいことと図書館ができること・支援できることをひもづけした図となっている。住民のニーズに対して基本目標の細かいところが関連付けられていくと良い。

意見シートにも書かせてもらったが、基本目標が5つなのは多い感じがして、3つくらいの方が伝わりやすいと思う。他の自治体の構想を見ていると、エレメントが少ない方がシンプルで、数は少

ない方が良く感じる。図書館の機能充実・サービスの充実は、「使いやすい図書館にする」という方針として1つとして考えるのも良いと思う。

委員：「究める」という感じは「きわめる」という読み方なのか。

事務局：その通りである。

委員：読めなかった。単純な質問で申し訳ない。

委員：意見シートの中にもいくつか似たような意見が出ているが、基本方針の中に「観光」という言葉が入るのはどうなんだろうと思う。観光人口を増やしていくための施策を進めていくことの大事さもわかるが、図書館として観光施設のイメージが強くなってしまうと、自分たちの地域の図書館だと感じづらくなってしまう可能性がないか。

委員長：柴田町は細長いまち。公共施設は偏りなく、という考え方もある中で、新しい図書館についても公園の近くに建設を予定しているのは、柴田町としての交流人口増加への取組の一つとして考えているからだと思う。建設場所はもうすでに決定しているものだし、町の方針としてあったとしても、基本方針の中に言葉として入れて、「観光」感を強くしすぎるのは、という意見かと思う。

委員：広報の方に記載のあった新図書館に関する方針の中には「観光」という言葉は無かったように記憶している。骨子案にのみ「観光」という言葉があるのは違和感。

委員：交流人口としての施策や町の思いがあることは確かだとしても、表現として「町外からの利用者を含めた利用の促進」という表現としておくのも良いのではないかと思うがいかがか。新しい図書館については、近い地域にお住いの方にはぜひ利用してもらいたい思いは間違いなくあると思う。そういった思いは「町外の方の利用も含めた交流」という表現で落とし込んでいくのがいいのではないかと思う。

委員：基本理念にある「グラウンド」というワードに関して、柴田町の土地柄や桜を活かしたキャッチコピーとするため、植物に関わる言葉を用いるという意味は分かるし、「育む」という言葉からは、憧れや夢、すべての可能性を育むという意味も感じ取れて、豊かな心を未来に伝えるニュアンスが伝わるので良いとは思っている。しかし、「グラウンド」という言葉に関して、柴田図書館＝グラウンドという感じがしっくりこない。グラウンドは「柴田町」のことで、図書館はその一部。どちらかというとなら図書館は、外気的な、光・風のような刺激となるものとして図書館がある感じの方が自分としては納得できる。

柴田町というグラウンドが育っていくための刺激が図書館。地域が、住民が育っていくため、図書館という学び舎で理解を深めていくような、それぞれの芽が育つイメージ。グラウンドという言葉について、再度検討してもいいかなと思う。

委員長：図書館は刺激であり、サプライしていくもののイメージの方がいいという意見であった。グラウンドの表す意味について、基本理念について、再度検討の余地はあるかと思う。

委員：基本理念の検討と同時に、この図についても検討することが必要だと思う。基本理念を公表する前に再考の方が良い。

委員：「花開く」というフレーズは、各個人が成長するイメージで考えていたのだが、どちらかというより、自分が成長するというより、町として地域として良くなっていくことを花開くとしているのだな、と感じた。ここに思いとの相違がある。いろいろな活動や行動をしていく際、まちづくりがゴールじゃなくて良いと思っていて、自分が図書館に行っていく行動は、必ずまちづくりに紐づかないといけないのかなという感じも感じ取れてしまう。個人が育つ集合体で地域が育つようなニュアンスを強めに示していけると良いかなと感じた。

また、どの要素から始めてもいいというのは、私も賛成。耕す等の5つの項目が同時にあって、どれも要素になっているような感じで示していけるといいなと思う。

委員：言葉やニュアンスについて、私としては意見があるわけではないが、基本理念として委員の皆さまが違和感を持っている、例えばグラウンドというワード等に違和感があるのであれば、再度考えることも必要なのではないかなと思う。

委員：基本理念・基本目標に関して、言葉には違和感ない。しかし、この図に関しては、検討すべきかなと思う。大きな木があって、葉や果実といったものが、成果のような形で成っていくような、町として・個人として成長することができるような図になるといい。土が木を育てるような。

アドバイザー：文字ではなく図が誤解を招く形になってしまっている。ここに記載の5つの項目は、回るものではない。プロセス的なものではなく、バックにあるものじゃないかなと思う。基本方針を取り入れていく形が表現できていない。図の書き方については検討する必要があると思う。

また、グラウンドは「場」という言葉を示している。他の自治体でも場づくりというワードは使われだしているものなので、その点は違和感ないが、グラウンドという表現の仕方に対し、委員の皆さまが違うと感じるのであれば再考の余地はあると思う。基本理念は残っていくものであるし。

委員長：5つの要素の表現の仕方は、今後も検討を進めていきたいと思う。また成長するものとしては、町の成長だけでなく、個人の面も含めて表現していけるといい。

委員：基本目標4の③について、私は違和感がある。「にぎわい」は図書館に必要なのだろうか。図書館とは、静かに本を読めるところなのではないかなと思う。賑わいは求めていないと思う。

また、基本目標5について、生涯学習に関する機能強化、まちづくり活動を支える拠点としての場所として、図書館を持つてくるのはイメージできない。公民館や文化センターならわかるけれど、図書館がその機能を担うのは違うのではないかな。

PDCAは図書館運営を進めていくうえで必要なことであるし、矢印なくどこからでもやれるという考え方は私も賛成。また、新しい図書館でのことを考えていくだけでなく、「現場の思い」「今の図書館の思い」についても把握して考えていく必要があると思うので、そういった部分へのフォローができるといい。

委員長：「賑わい」の部分に関しては町の思い・方向性として入れられている面もあると思う。そのあたりについて、事務局としていかがか。

事務局：今回の図書館整備に関しては、都市再生整備計画の1つとして取り組んでいるもの。「賑わいを生み出すまちづくり」の取組として図書館だけの方向性ではなく、公園等を含めた大きな方向性として

人が集まる地域づくりを進めていくことを考えており、賑わいあるまちづくりの拠点としての機能を、町の希望としつつ、このエリアの整備を考えているところ。

もちろん図書館をがやがやさせたいということではなく、あくまでも人が集まる場所を整備していきたいという表現として書かせてもらっている。しかし、図書館の方針として書くのは違和感ということであれば、再度検討させていただく。

アドバイザー：確かに、旧来の図書館に「賑わい」のイメージはない。ここ数年で生まれた概念で、図書館に賑わいの機能を持たせるように、近年は全国的にそっちに進んでいる。ここは選択だと思う。

「静かな」図書館とするのも、「賑わいのある」図書館とするのも、どちらも正しい。どちらがダメというわけではない。どちらの方向性で進めるかはそれぞれの自治体で選択するもの。

また、図書館にまちづくり活動やまちづくりに関するサポート機能を持たせるのも、近年の傾向。

図書館が良い施設になると、自然と人が集まってきて交流にも繋がる。今の図書館の登録率をさらに向上していくためにも、人が集まる図書館を実現していくことは必要。人が集まる施設にしていくことは、補助金的な面として予算の関係の上大事なこと。でもそこに「賑わい」という言葉をはめるかは再考しても良い部分かとは思ふ。賑わいとしての意味合いを弱めて表現していくことはできると思う。

委員：「まちづくり」という言葉って、ざっくりした言葉だなと感じている。人の心が留まるようなこと、そしてその心で行動に繋がること、そういった心に起因することはすべてがまちづくりなんではないかと思う。自分のしたいことをする、自己実現に向けた行動もまちづくりで良いと思う。社会教育士の資格を取った際、そういったことに関して学んだ。図書館は社会教育施設。社会教育とまちづくりは似ていて、差異はあまりないと思う。まちづくりに関する支援・取組は、社会教育施設の機能として、図書館に本来ある機能の1つで、本来持たないといけないものなんだと思う。

副委員長：委員長が冒頭のあいさつでおっしゃっていた「からまりシロのある図書館」という言葉がまさにそれが柴田町の図書館だと感じた。「新しい図書館を建てた、蔵書揃えた、さあどうぞ!」としても、集まる人は集まるだろうけれど、新たな柴田町の図書館としてはどうなのかなという思いがある。

柴田町の図書館は、現状としても頑張っていて運営されていて、とてもたくさんの取組、かなりの取組をなさっている。読書活動の推進としてブックスタート、児童図書プレゼント、ボランティアとの連携も取り組まれていて、地域との繋がりに向けた立派な取組を実施している。他の自治体よりも、図書館規模としては大きいものではないが、取組としてはピカイチ。進んでいる図書館であると思う。

図書館をサポートする委員会が前はあったけれど、今はないとのことで残念な気持ち。現在は、「図書館ほんのちょっと支援隊」という隊もあるとのことで、ネーミングも素晴らしい。

このような運営をサポートするボランティア活動もさらに進めていけると良いと思うし、柴田町の図書館としては、基本方針4・5は大事にしてほしい。図書館としてやるべきことか、という考えも理解できる。しかし、なんでもできる図書館の方が良いなと思うし、今の図書館もコンパクトにたくさんのことができていて、たくさん取り組んでいければ、人も集まりやすいかもなと思う。

委員長：基本目標5の③にあるような、みんなで図書館の運営を支援する取組については持続的にやればより良い図書館へ進んでいけるだろう。

委員：私も色々調べる中で、様々なスタイルの図書館があるのだなと思った。伊丹市の図書館では、住民による図書館の運営会議が定期的開催されていて、住民から企画提案が多く出されている。図書館のホームページにも企画を提案・提出するためのフォームが準備されていて、誰にでも参加が出来るようになっている。またホームページも親しみやすいデザインで、参加しやすい雰囲気。まちづくり活動の1つとして、図書館運営参加がなされている。

図書館の施設だけでなく、こういった情報の発信の仕方についても、検討を進めていけると良い。図書館運営へ参加しやすいやり方・手法を考えていくことが大事だと思う。新しい図書館を建てる機会を、新しい方法を取り入れる良い機会に活用してほしい。

委員長：柴田町には、市民活動へのサポートする施設というのは、図書館の他にもあるのか。

委員：しばたの未来株式会社や商工会で、ビジネスに関するサポートは行っている。よろずや相談という窓口で相談も受け付けている。でも、そういったビジネスを含む支援についても、図書館でも実

施していけると良いと思う。情報はたくさん保存されていると思う。

アドバイザー：確かに、図書館はまちづくりの主要拠点ではない。しかし昨今、フィルター無く集まれる場所というのが図書館だけになってきている現状がある。公民館も今は住民が行きにくい、立ち寄りにくい場所になってきている。

また、ビジネスに関する支援としても、仕事に関するものだけがビジネスではない。起業だけでなく、町内会を育てる、団体を立ち上げる・運営することもビジネス。そこを支援するのは、図書館がぴったりで、地域に溶け込んだ支援が出来るだろう。ビジネスの捉え方を広く持って、まちづくりにも関連する部分として支援していくことは重要な視点だと思う。

これまでの話とは少し異なるが、「サポート」や「ボランティア活動」という言葉は、下に見た言葉として感じられる、受け取られることもある。

住民と図書館と一緒に進んでいくのには、「協働」の方が良い。あくまでも主役は「住民」であり、図書館は住民の活動や学びをサポートする。表現について修正を考えていくのは1つの案であると思う。

(2) 新図書館の蔵書数及び延床面積について

委員：若い人を中心に電子書籍やオーディオブックを使われる方も増えてきている。この蔵書予定数8万札の中に、そういった本は含まれているのか。

事務局：電子書籍等については、CD・DVDコーナーとともに、取り入れるかどうか検討を進めている段階。電子書籍のニーズは上がってきていると思うので、新しい図書館にもどう取り入れていくのかは、今後検討していかなければいけないと思っている。現状として、1,500平米・8万冊の中に、電子書籍やオーディオブックに関連する書籍・部屋は含まれていない。

委員長：ここに記載の各部屋の設備予定に関しても、現場の意見で考えられているということで間違いないか。

事務局：おっしゃる通り。司書の方で検討を進め、資料として示している。

委員：対面朗読室に関する記載がある。それに関連して、以前、朗読ボランティアをしている方と雑談した際に聞いた話なのであるが、「朗読を行うための部屋が無いから大変か？」とたずねたところ、「対面の朗読室は無くてもそこまで困らないが、録音室については必要。」と言っていた。そういう意見もあるので、ぜひ検討していただきたい。

委員長：建設費が高騰しているという説明もあった。この予算の13.5億円については、建設費のみの予算か。

事務局：こちらの予算は、設計費・建築費・外構等、すべて入れ込んだ金額の予算として計上している。

委員長：図書館として1,500平米で8万冊は妥当なところかなとも思うが、図書館としての機能として必要なものを埋めていくと、ぎりぎりかなといった感じ。余裕が無い。今回の図書館建設は、都市再生整備計画に基づくもので、他の施設も分棟されるのかなと思う。図書館ではここまでやれるけど、ここから先の機能は、他の棟やその地域全体で担うといった視点も必要になってくるのではないかと思う。

現行の図書館に関する今後の予定の検討はこれからなされるのか。

事務局：現在、同時進行で進めているところ。今ある図書館についてもリノベーションを行う予定としているため、そちらもあわせて検討している。先日、再生整備エリア全体のWSも開催され、郷土館のリノベーションや跡地をどう使っていくかについても話し合いが行われている。

外構に関しても、図書館前の道路をどうしていくかという話もある。エリア全体として連携して考えていく必要があると考えている。

委員：新しい図書館については、蔵書数も平米数も大きくなるとのことで、年間の運営費についても増加するのではないかと思うがいかがか。現状よりどれくらい上がる想定なのか。

事務局：町の予算は図書館のみで計上されておらず、図書館運営のみのものとなると算出するしかないのが概算であるが、図書館に関する維持管理費は9千万円いかないくらい。今後の予算としては予測ではあるが、1.5倍程度にはなると考えている。人件費も建物の維持費も上がってくるので、1,200～1,300万円のランニングコストがかかることが想定される。

委員：新しい図書館では、こどもに関する部屋は独立する部屋となるのか。

事務局：子ども図書館として独立した館とするのが、当初、案として挙がっていたが、管理の手間や人員を加味し、同じフロアにて整備することとさせていただきたいと考えている。

委員：仕切る壁のようなものは無いということか。

事務局：その通り。物理的に遮る物を設置するものではなく、床材等を活用してゾーニングを工夫することで対応したいと思う。

委員：承知した。ゾーニングは大事な部分だと思うので、検討を続けていただきたい。また、北側を駐車場とするとのことであるが、凍ってしまってアイスパーンになる危険性がある。柴田町の気象についてあまり詳しくないので、大丈夫かもしれないが、想定しておくことは大事だと思う。

また、緑に囲まれた図書館というのはとても良いことなのだけれど、虫・鳥の対策が必要になってくる。特に鳥は壁にぶつかって亡くなるということがたまに起こる。鳥が図書館内に入ってきてしまうケースもあるので、そのあたりも踏まえて考えていってほしいと思う。

また、利用カードについては、マイナンバーカードになるかもしれないという可能性を考えておくと良いと思う。検討していってほしい。

カフェについては、事務局の判断通り、やめておいた方が良さだろう。自身の図書館でも、レストランの運営を行っていたところが撤退した後、1年以上後釜が来ず、その間はレストランが開けられなかったということもある。

子どもに関連して、おむつの交換は可能であればこども図書室の中にもあると良いと思う。また、手洗い場について、子どもも利用できるように低いものも必要。そういった部分も踏まえ子どもも使いやすい図書館、実現していってほしい。

事務局：踏まえて、検討していきたい。

副委員長：ゾーニングという話があったが、本を読むのに「音読」「黙読」というこの2つの要素、切っても切れないもの。小さい子、小学校低学年くらいまでは音読が大切で声を出して読む機会づくりは重要であるが、大人になると黙読となっていく、そうになるとやはり、声や雑音があるイライラしてしまう方もいるだろう。「音読」「黙読」の機能を1つの図書館で併せ持つことが必要になる。

対面朗読室も資料の中にはあるが、子どもたちにはそれだけでなく日常的な読み聞かせが重要。そういった行為を咎める大人も出てきてしまうかもしれない。でも「音読」も「黙読」もどちらも保証する必要がある。ゾーニングしっかりしていってほしい。

委員：副委員長のおっしゃる通り、賑やかなエリアと静かなエリアがゾーニングされて、みんなが居心地良い図書館になれると良いと思う。あと、町長さんは新しい最先端が好きなのだろうと思うが、私としてはなじみのある本があった方が安心感があるので、そういう本についても残してほしいなと思う。

また、資料を見ていく中で、移動図書館のような、他の地域での利用できるサービスは無いのかなと感じた。私自身が槻木に住んでいるので、図書館の本館に行くことがあまりない。移動図書館とかバスとか、他の地域も巻き込んで、広く利用できるようなサービスがほしいと思う。多くの方が本に触れる機会づくりが出来ると良いな、広げる方があると良いなと思う。

委員：自分は剪定のボランティアもしているが、図書館の周りの緑については、日本庭園やブリティッシュガーデンのようなものでなく、ナチュラルガーデンが良いと思う。県の図書館もレストランから見える植栽の眺めとても良い。そういった雰囲気を指すのも良いかなと思う。

また、蔵書に関して、本は最初の数だけではないと思う。私自身、図書館で自分の好きな分野の本を借り続けていたら、その分野が充実してきたり、大活字本もたくさん借りていたら、数が増えてきたりした。図書館はそういったニーズに沿った蔵書管理も行っている。それは図書館機能の一つだろう。そういった機能があると知ってもらえたら良いなと思う。

アドバイザー：移動図書館については、現在 550 くらいの図書館で実施されている。約 3 千ある図書館のうちの 1 割強といったところ。移動図書館に関していうと、まずバスの購入に 2 千万円ほどかかる。車の寿命として 10 年間で割ると 1 年 200 万円。移動図書館用に本を用意して 100 万円。さらに人件費も、運転者も必要となる。予算的には難しいだろうし、図書館本館の場所を削減（200 平米くらい必要）してまで必要な機能かという部分は一考の余地ありといった感じ。

また、昔はそういった移動図書館が地域の拠点（集会所やアパート）に行く人が集まっていた。しかし、今は集まらない。そのため、移動図書館は、近年では学校や老人施設に行くようになってきている。そうなると、移動図書館としての機能は必要なのか、配本でも間に合うのではないかということになってくる。社会環境が変わって、移動図書館へのニーズが変わってきている。いろんな地区が図書館の機能を図書館の本を使う方法は必要であるが、その方法として移動図書館を選ぶのか、違う方法を考えるのかは、考えていかないといけないところだと思う。宅配事業をすとか、各学校に本を置くとか、電子書籍でカバーすとか、様々な代わるものを考えていくのも方法だと思う。また、図書館で長時間過ごしてもらおうことを目指して、来館への支援を行うことも一つの案。柴田町のニーズに沿った支援策を進めていくのが良いのかなと思う。

委員長：現状の柴田町でも、1 日 1 往復、コンテナに本を詰めて移動させて、本の行き来を槻木とやっている。そういった配本が移動図書館に代わるものとして生きてくるといい。また、学校図書室にも各校（9 校）に司書がいるのは本当にすごいことだと思う。また、その司書さんたちも毎朝と毎放課後に集まって会議・情報共有をしているとのこと。学校図書館と図書館の連携もしっかりとされている。

また、学校での保護者への貸し出しも取り組まれているとのこと。

委員：自身の学校でも保護者に貸し出しを行っているが、保護者の皆さんが忙しく借りに来てくれる方はいない状況。しかし、司書との連携はしっかりしていて、月ごとのイベントも企画して実施してもらっている。子どもたちの貸し出し冊数としては多く、だんだん伸びてきている。

また、話は少し変わるが、小室達さんの作品を飾る場所について、引き続きご検討いただければと思う。よろしく願います。

アドバイザー：学校図書館を市民に開かれたものにする取組は他の自治体でも進められているが、あまり良い成果が上がっているところは少ない。家読（うちどく）といって、親子で一緒にお家で本を読むという取組は、全国的に取り組まれており、同じ本を親子で読むことで、親子の会話をもっと膨らませる、たくさん会話するためのきっかけとする取組。そういった取組に向けた本の提供をし

ていくのも、1つの取組だと思う。

今年の Library of the Year の大賞は「みんとしょ みんなの図書館」。まちらいぶらりーといって、地域のお店に図書館の本を置いて、そこで読んだり貸し出しができる取組。それぞれのお店に訪れる方が増えたらまちの活性化にも繋がる。図書館だけでできないことは、みんなでやる。自治体だけで実施するものだけではないという発想・アイデアはもっと取り入れていけると良い。民間・住民と連携してやっていくことも必要な視点だと思う。

事務局：施設設備に関して、CD・DVDの整備をどうしようか、検討しているところ。委員の皆さんからも意見をいただけたらありがたい。

委員：CD・DVDというと音楽を聴いたり、映画を見たりするためのもののことか。

事務局：基本的にはそう。CD・DVDを貸し出したり、DVDを個室で観たりできるような設備を考えている。スペース的にも予算的にも厳しい中で、CD・DVDの設備を整備するべきか、そういった場所も図書場所とするべきか、事務局としても悩んでいるところ。

委員：いっそ、レコードの方がいいかもしれない。みんなで持ち寄って聞く会みたいなのができると思う。海外ではレコードの方が主流。CDにとらわれなくてもいいのかなと思う。また、音楽の演奏も一緒にできる場所があれば、音楽に触れる機会にもなるし、芸術に触れる機会づくりになると思う。

図書館は本だけじゃないという考えはとても良いと思う。情報媒体としてのCD・DVDは必要だと思うが、スペースの問題もあるということなので、アドバイザーのおっしゃるように選択する部分なのかなと思う。アドバイザー：今はこういったオーディオはパッケージでなくなって、サブスクリプションが主流。音楽や映画のような部分は必要ないかなとも思うが、それよりも、図書館が保存すべきは地域の情報。商業データベースや地域のアーカイブを残しておくことは、図書館の必須事項。そこに取組を持っていく方が良いと思う。

委員：自身の図書館でもCD・DVDの利用・貸し出しは減っている。今は配信サービス等で音楽や映像を楽しむ方がほとんど。CD・DVDを利用されているのは年齢層が高めな方が多い。見たい映画等、自分でみたいものお金を出して観たいものは、そういったサービスを使って自分で手に入れてもらう方向が良いのではないかなと思う。また、図書館では、「貸し出し」することが必要なので、一般的に販売されているCD・DVDの料金よりも高くなる。貸し出しを行うための権利が付いたものを購入することになるので、予算的に跳ね上がる。

また、うちの図書館にもレコードがある。レコードを触ったことが無い人のために開放して、針を落としてみる体験を企画したりしていて大変好評だった。そういった、企画の1つとして検討するのも良いアイデアだと思う。

委員：娯楽のCD・DVDの場所があるよりは、目が見えず、本が読めない人のような障がいのある人が楽しめるスペースがあるほうがよっぽど良いかもと思う。

アドバイザー：デイジー図書は普及してきており、多くの自治体の図書館で取り入れられている。

委員：CD・DVDの貸し出し機能は無くてもいいかなとも私思う。それとは別に、シアタールームのような、プロジェクターで持ち寄ったDVDをみんなで観れる場所があるのはいいかもしれない。

委員：働く世代の図書館利用を増進させるために、ビジネス書を耳で聴くようなサービス・オーディブルへ補助金が出たりしたら良いのではないかなと思う。そういった支援・サービスがあるとビジネスの方利用者が増えてくるかもしれない。

委員：私もCD・DVDは無くても良いと思う。しかし、他の委員のおっしゃるように視聴覚室のよう

な部屋はあると利用の幅が広がるかなと思う。また、まったく別の提案だが、3Dプリンターがあると楽しいと思う。

委員：娯楽の映像や音楽を図書館でそろえる必要はないと、私も思う。それよりも、視覚障害のある方にも楽しんでもらえるような、録音の図書を貸し出しできるような取組があると良い。同じ図書の内容を、そういった方も共有できるような機会があるととても良いと思う。また、シアターといった意見もあったが、私も賛成。家庭では体験できない大きな映像体験が図書館でできると良いと思う。

カフェ機能については、販売機の設置やキッチンカーの併設で対応するように、CD・DVDについても貸し出しの代わりにシアターのように、代替できる視点を持てると図書館での可能性が広がっていくと思う。

委員：CD・DVDについては、使ってる方もあまりいないし、いらぬ雰囲気強い。しかし、文字や映像が見えない人へのサービス提供の充実が必要なことだと思う。

また、CD・DVDについて、借りたい人がいた場合に、他の図書館と連携して、そこから取り寄せる等の対応ができたりしないのか。

事務局：CD・DVDについては、申請いただければ宮城県立図書館の方から取り寄せができて、町内の図書館で受け取り、借りられるサービスを行っている。

アドバイザー：図書館で持つべきは、資料としてのもの。地域のデータ・アーカイブは、図書館で集めておく必要がある。データベース化も含め、そこは持つ必要があるところ。また、障害者対応としてのサービス提供に向けたものも、図書館機能としては持つべきものであると思う。

全国的にも、楽しむためのCD・DVDの貸し出しは止めつつある傾向となっている。方針としては1つあるかなというところ。

委員：地域資料として図書館に残していくことは大切にしていってほしい。学校の校歌を残したり、地域の資料やPDF、イベントの映像など、地域の資料を残すところは図書館であり、図書館が頼られるのはそこだと思う。地域で作られたもの、資料等については、積極的に集めますという方針はだしておくべきものだと思う。

委員長：オーディオに関しては、娯楽ではなく地域の情報や障害者向けのものとして活用していく方向性という意見が多数となった。そういったところへの取り組みは考えていってほしいと思う。また、地域の情報に関しては、データの取り出し方も一考であると思う。フランク永井さんの出身地では、その地域のヒーローだということで、レコード等を残す取組をしていたそう。そしてイベントでそれを流したことがきっかけで、高校生等の若い世代が出身なんだと知ったりして、世代が繋がっていった事例もある。イベントで放映してみんなで観る機会を作るのか、タブレットでいつでもだれでも観れるように整備するのか、そういった情報を並べておくための部屋やスペースを作るのか。データをどう見せていくのかという方法を考えることも必要だと思う。

事務局：色々な意見を聞かせていただいて大変ありがたい。アンケートの中でもCD・DVDに関する意見が挙がっていたので、検討しなければいけない要素の1つだと思い、この場でご議論いただいたところ。意見を参考に、今後も検討を進めていければと思う。

4 連絡事項

事務局：次回会議については、12/22の14:00から、会場は同じ保健センターにて実施予定。次回の会議では素案の形で計画書の案をお示しできればと思う。

5 閉会のあいさつ

6 閉会

以上